

群馬県立女子大学 FLRI Newsletter

Foreign Language Research Institute

外国語教育研究所だより

Vol.26 2015.3.20

グローバル人材育成事業

「明石塾」

塾長講義

1月31日、明石塾長は塾生に対し、研修を行いました。今回の研修はすべて英語で行われ、前半は塾長による講義、後半は塾生からの質問に塾長が答えるという形式で行われました。

前半は、40年間の国連時代に出会った様々な文化的背景を持つ人々についてのお話から始まり、グローバル時代においては世界に目を向けていくことがますます重要であることを訴えました。その後、今年戦後70周年を迎えるにあたって、この間の世界の中における日本の歩みについてお話になりました。終戦を迎えた少年時代に馳せた想い、米ソ対立を中心とした東西冷戦時代、近隣諸国で起きた朝鮮戦争・ベトナム戦争と日本の関わり、日本の経済復興、ベルリンの壁崩壊後の世界、近年のアジア諸国との関係等、戦後の世界情勢に関する話題は多岐にわたり、世界の中の日本という視点からまさにこの70年間の歴史を網羅する内容でした。そしてこのように振り返った時、日本が責任ある平和で民主的な国家として、世界と今後どう関わっていくべきなのか、塾生のような若い世代は何ができるのかを問いかけました。

後半は塾生一人ひとりが、講義内容や普段から疑問に感じている問題について質問をしたり、将来の夢や職業に関する相談をしたりするなど、思いのままに英語で塾長と話し合いました。示唆に富んだ塾長からの意見、感想に塾生は真剣に耳を傾けていました。



修了式塾長式辞（抜粋）



日本人には、狭い日本的な世界に閉じこもりがちなガラパゴス的心情があると言われるますが、それから脱却していくことが今後ますます重要になってくると思います。今、私たちは変わっていく世界、日本の中に生きています。日本と外国との障壁が低くなり、日本人としての行動が日本人のみならず外国人によっても判断される時代になってきています。国連が主催する防災世界会議が仙台で開催されますが、約100か国の代表が参加します。東日本大震災をどのように日本が受け止め、復興・復旧に努めているのか、またそれが世界にとってどういう意味、教訓を持っているのかということについて、日本人と外国人が防災、減災を目的に国際的な枠組みを議論し、共通の結論を導くように努力します。つまり、日本の中で日本人だけが問題に取り組むのではなく、世界中の人たちが判断に加わるわけですが、その結果、世界が一つになって国際協同行動がとれるようになるのです。

ではみなさんは、このような世界において、どのようなスキルを身につけていけばいいのか。これは日本の教育にとっても大きなチャレンジで、最終的な答えは出ていません。短期的に見れば、ある答えが出るでしょう。しかし、長期的に見れば別の答えが出るかもしれません。問題はみなさん一人ひとりが一所懸命考えて、自分が納得できる答えを出すことです。答えが簡単に出ずとも、問い続けることに意味があります。変化していく世界では、前を向いて歩いていく必要があると思います。退歩することや、とどまることはできません。大変しんどいことになりますが、お互いに励まし合いながら前進していきましょう。みなさんのこれからの一層の発展と成果が上がることを祈り、お祝いの言葉に代えたいと思います。

研修報告

明石塾では次のとおり後期研修を行いました。

日付	午前	午後
10月25日(土)	英語研修15・16	東京フィールドワークまとめ、公開研修準備
11月8日(土)	英語研修17・18	公開研修プレゼンテーション準備
11月15日(土)	英語研修19・20(公開)	安田菜津紀氏(フォトジャーナリスト) [講義⑧] (公開)
12月6日(土)	英語研修21・22	海外研修準備(事前研修)
12月13日(土)	海外研修プレゼンテーション準備	
1月4日(日)~10日(土)	海外研修(学校訪問、企業訪問、フィールドワーク、ホームビジット等)	
1月11日(日)	海外研修まとめ	
1月31日(土)	英語研修23・24	明石塾長英語講義 [講義⑨]
2月7日(土)	研修まとめ、成果発表会準備	研修まとめ、成果発表会準備
2月28日(土)	研修まとめ、成果発表会準備	研修まとめ、成果発表会準備
3月7日(土)		研修成果発表会、修了式(公開)

【公開講義】

11月15日、フォトジャーナリストの安田菜津紀氏を招いて公開講義を行いました。途上国や日本国内の貧困や災害を取材される氏のお話しに、途上国支援に関心が高い塾生は大いに刺激を受けました。



【海外研修】

1月4日から7日間の海外研修では、マレーシアとシンガポール両国における「多文化主義の現状」について、教育施設や企業訪問、市内フィールドワーク、農村地域でのホームビジットを通して体験的に学習しました。高校訪問では、明石塾研修について英語でプレゼンテーションを行う機会もあり、お互いの文化社会や世界情勢について意見交換をし、交流を深めました。



【成果発表会、修了式】

3月7日、本学において成果発表会が行われ、第13期生20名が5班に分かれ、7か月にわたる研修で学んだことを英語で報告しました。続く修了式では、塾長から手渡された修了証書を胸に、塾生達は今後も明石塾で学んだことをさらに発展させ、グローバル社会に通用する人材になるべく、努力を重ねる決意を新たにしました。



明石杯高校生英語コンテスト

11月21日、研究所では群馬県教育委員会、群馬県高等学校教育研究会英語部会との共催で明石杯高校生英語コンテストを開催しました。県内予選を通過した69名が出場し、日頃の練習の成果を競い合いました。コンテスト終了後は、ダニエラ・バエズさんから“The Importance of Language and Cultural Learning”という演題で講演がありました。各部門の入賞者は次のとおりです。

〈特別賞〉

レシテーション
須賀 大地 (伊勢崎清明 2年)
スピーチ
吉野 恭平 (利根実業 1年)
プレゼンテーション
古室 文也 (四ツ葉学園 4年)
山田 麟 (沼田 2年)
増尾 拓樹 (高崎 2年)
海外滞在経験者スピーチ
セガル ジャエル ステファン レリオマ (玉村 1年)

部門 順位	レシテーション	スピーチ	プレゼンテーション	海外滞在経験者スピーチ
1位	ビスポ ジョイセ (伊勢崎 1年)	高山 広海 (前橋 1年)	岩澤 ひかる (中央中等 5年)	北爪 桃和音 (中央中等 6年)
2位	今田 光洋 (前橋西 2年)	柴崎 はるな (四ツ葉学園 4年)	須田 瑤子 (新島学園 2年)	関口 ベンジリン (館林女子 1年)
3位	ユミ ティシェイラ (共愛学園 1年)	長岡 音羽 (高崎女子 2年)	川端 一輝 (共愛学園 2年)	清水 慧人 (農大二 1年)
4位	早川 友乃 (大泉 1年)	加藤 雅子 (前橋女子 2年)		
5位	高橋 正一 (利根商 2年)	飯島 萌子 (中央中等 5年)		
6位	松本 正広 (渋川工 1年)	古谷 優希 (共愛学園 2年)		



小学校英語活動支援事業

研究所では、館林市と連携して小学校の英語活動支援を行っています。

1月29日は、館林市立美園小学校において小学校英語活動推進事業研究発表会が行われました。全体会では研修主任より、研究主題に基づく1年間の各学年ごとの実践報告、成果と課題について発表があり、1年生、3年生及び5年生のクラスでは公開授業、授業研究会が行われました。先生方が全員で協力して作り上げた楽しい授業を通して、児童の皆さんは英語に親しみながら、自信を持って先生や友達とコミュニケーション活動を行いました。



大学高校英語教育連携事業

昨年度に引き続き、伊勢崎高校、沼田女子高校、高崎経済大学附属高校の各校と連携し、英語コミュニケーション研修を行いました。

研究所の外国人研究員を講師に、各校とも「英語による説得力のあるプレゼンテーション」を行うために必要なスキルの習得を目指し、年間3回の研修を通してテーマ設定の仕方や原稿の書き方、効果的な発表の仕方について学習しました。3回目の研修ではこれまでの成果発表として、グループごとに設けたトピックについてディベート形式でプレゼンテーションを行いました。

また2月10日に高崎女子高校で開催された特別講座「国際理解授業」では、外国人研究員に加え、本学外国人留学生2名も講師として参加しました。授業では1学年全クラスに対し、レクチャーやディスカッションを通して異文化間コミュニケーションの重要性について研修を行いました。



県民英会話サロン「グローバルカフェ」

今年度は、5月より年間29回のかフェを開催し、延べ1,360名余りの皆さんにご参加頂きました。第2期最終日の12月18日には、「カフェスペシャル」を開催し、本学国際コミュニケーション学部の和泉智香さん、坂本友菜さんがそれぞれ留学時の体験を英語で発表しました。また本県小学校ALTのジョハン・サブトラさんもゲストスピーカーとして参加し、出身国であるインドネシアについて発表しました。どの発表も興味深く、質疑応答では参加者の皆さんと活発な意見のやりとりが行われました。発表者、参加者の皆さん、ご協力ありがとうございました。

平成27年度の開催については、4月以降本学のホームページでご案内する予定です。引き続き多数のご参加をお待ちしております。



英語教育講演会

12月20日、県内教育関係者を対象に英語教育講演会を開催し、神谷信廣准教授（本学国際コミュニケーション学部）が、「外国語のクラスで、生徒の口頭の間違いをどのように直すか～あなたの信念、学習者の信念、そして研究が示すもの～」という演題で講演を行いました。

口頭での誤りを直す際、どのタイミングで、どのような形で、またどのような場面や観点で指摘するのが効果的だと教師側は考え、行っているのか、また学習者は教師側からの指摘をどのように感じているのか、について考察する内容でした。教師側・学習者側でのそれぞれの感じ方の相違点が豊富な研究データで示され、非常に興味深いものでした。神谷准教授は、間違いの訂正を効果的にするためには、誤りの種類（文法・発音・語彙）、誤りに対する指摘・説明の明示性、学習者のレベルや年齢等を考慮し、場面に応じているいろいろな訂正方法をとるべきだとし、また同時に学習者の気持ちに配慮することも大切だと述べました。

講演中は、参加者がペアになり実演をして交流を図る場面があるなど和やかな雰囲気でも、また講演後は質問や意見が多く出されました。参加者にとって、今までの指導法を振り返り、今後を模索する機会を得ることができた有意義な講演となりました。



留学支援事業

本学の「海外留学支援制度」を利用し、毎年多くの学生が留学をしています。学生から帰国後寄せられた感想文より一部をご紹介します。



短期海外研修（語学留学） カリフォルニア大学サンディエゴ校（アメリカ） 国際コミュニケーション学部2年 Y.K.

9月の4週間、アメリカのカリフォルニア大学サンディエゴ校の語学研修プログラムに参加した。

この研修を通してまず感じたことは、実際に国外に出てみて初めて、自国の本当の良さが分かるということである。クラスメイトはいろいろな国籍の人がいて、授業でそれぞれの国について話す機会があり、その時、彼らが日本や日本人の良いところを話すのを聞くに当たり、そのことを改めて自覚することが何度もあった。

最大の目標であった英語力も向上した。授業が始まった頃は、先生やクラスメイトの話すスピードがとても速く、すっかり自信をなくしてしまった。しかし、次第に慣れてくると、相手の言っていることも徐々に理解できるようになった。帰国後、大学の授業が以前よりも内容が理解しやすく、スピーキングにも自信がついていることに気づいた。

さらにもう一つの目標であった国際交流もすることができた。クラスメイトは年齢もさまざまで、職業を持っている人も多く、彼らとの話は語学だけでなく社会勉強にもなった。

この研修を通して、全てが自らにとってこれから生きていく上で非常に重要で、役に立つものであった。

長期留学 フレンチ・イン・ノルマンディ / モンペリエ第3大学 IEF（フランス） 文学部美学美術史学科4年 M.N.

1年間のフランス留学で特に印象深いことは、様々な国籍の学生や現地のフランス人から、その人々の母国の現状を聞くことができたということだ。

フランスでは北部と南部で生活をしたが、それぞれの地方文化や人々の考え方の相違点を生活の中で体験することができた。中国人、韓国人学生から学んだ中国の時事や文化、日中、日韓関係のとらえ方や、スイス、イタリア、ブラジル等の学生からは様々なテーマで彼らの国について色々なことを知った。同時に海外の人が捉えている日本文化や慣習を聞き、それらが事実かどうかを見極め、間違っていた場合その間違いを説明し、細かいニュアンスを守りながら誤解なく事実を伝えることは難しかったが、必要なことだと感じた。

そしてそれを可能にしたのが、それができるまでに達した語学力のおかげである。語学力が上達するにつれ、それが許す表現方法や話題の難解さが増したが、そのぶん人との交流を通して、知り、気づき、得られることが広がっていったのである。まず第一に外国語のスキルがあり、それを通してたくさんのことを学ぶことができたことが、今回の留学で得たことだ。そして帰国した今、このことを生かし、今後の外国語学習や専攻の研究を発展させていきたいと思っている。

